

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会東海地方会
 〒 470 - 11
 愛知県豊明市杓掛町田楽ヶ窪 1 - 98
 藤田学園保健衛生大学医学部公衆衛生
 学教室内 電話 (0562) 93 - 2453
 発行責任者 島 正吾

(題字 皿井 進筆)



豊田会豊田健康管理クリニック
 健康管理部長
 高山今朝文画

神河内憧憬

信州上高地は明治末までは神河内と呼ばれた。この絵の技法は著者のオリジナルで、クレヨン、水彩、墨汁、削出し小刀を使った“クレヨン版画”とも云おうか。

新春を迎えて



新年あけましておめでとうございます。

日本産業衛生学会東海地方会の会員並びにご関係の皆様には、本年もまた健康と希望に溢れたすばらしい一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

さて、最近の産業社会は労働人口の急速な高齢化はもとより、その質や拡がりにおいて

大きく変容しようとしております。

私たちの身边でも、エレクトロニクス、バイオテクノロジー、ファインセラミックス、ファインガラスフォーマル、エンジニアリングプラスチック (エンプラ)、光ファイバーやロボットFA機器など、ほとんどが耳新しいカタ仮名産業が氾濫しており、いずれも次の代のリーダーシップを握るため日夜鎬を削っております。

ところでこの凄じいばかりの産業構造のハードウェアの変革の中にあって、新しい次元での労働者の健康を守るために、私たちは今後どのような労働衛生的対応をとるべきでありましょうか。下

日本産業衛生学会東海地方会 会長 島 正吾

手をすると、全く新しい生産素材や超高度の技術革新の渦にもまれて、新しいタイプの健康障害が古い生産工程や、労働態様の中から発生してくることも考えられます。

一方、ヒトの問題では、最近漸く60才定年制が定着したかに見えますが、事態はすでにスピードが加速されており、厚生省推計では昭和75年には60才以上の労働人口は880万人に達し、しかも60才前半の男子の退職希望年令は、65才まで働きたいが36.5%、70才までが実に41.8%にのぼっています。この点現在でも61才以上の定年制をとっている企業が低率ながら、すでに5%近くにあることはこの課題への将来のあり方を垣間みる思いがします。

このようにわが国の労働衛生問題は、高齢労働者対策を含めて、今や質的にも量的にも一つの分岐点に立っており、従来の効率中心主義的な成長型産業社会から、生産性や労働態様の個性化を中核とした成熟型産業へと脱皮しつつあり、私どもはこうした状況に即応できるよう、地方会産衛活動のためのソフトウェアづくりのために全力投球を期するものであります。

新春随想

青山光子 (名古屋市立大学衛生学)



今年の干支は寅。寅年生まれの私にとっては12年毎にめぐってくる私の年でもある。

虎といえばネコ科中の最大の猛獣として恐れられているだけに、とくに好きな動物ではない。しかし、この機会に、虎に関して、一体どんなことわざや言葉があるかと辞書を開いてみることにした。

虎の巻、虎の子、虎の尾をふむ、虎口を脱す、虎の威をかる狐、虎穴に入らずんば虎子を得ず、虎は千里の藪に住む、虎の子渡し、虎は風に毛を振う、など、よく知られているものだけでも実に多い。なかには虎の子供に対する愛情をたとえたような優しいものもあるが、ほとんどは虎の恐ろしさを表したものである。その他、虎を野に放つというのもあった。解説をみると“危ないものをほったらかしにしておくこと。トラは密林の中にかいなく思ったら大まちがい、大都会の中には大トラ、小トラが野放しになっている。毎日の事故や事件がそれを証明している”と書いてある。

一般にトラになるといえば、酔っぱらうこと。辞書にも“押えにくいところから酔っぱらいの意にも用いられる”とある。

交通事故防止の調査をしていても、一向に減少しないトラによる飲酒運転事故を何とかできないものかと思つづく。最近では女性のトラも多くなった。いわゆるキッチンドリンカーの増加である。女性のアルコール依存症患者がふえているという。たしかにアルコールはストレス解消にも役立つのだが、飲酒の機会が多くなったこの頃だけに、もっと考えたい問題だと思う。虎が気を悪くするよう大トラにはなりたくないものだ。

石川 昭 (三菱化成工業四日市工場)



新春に、地味なお話で恐縮ですが、最近思いついたまゝを書いてみました。

最近、各県の医師会でも産業医研修会が熱心に開催され、又、行政機関、医師会、事業所からなる、地域又は地区産業衛生懇談会等が盛んとなってきました。

約10年程前には、開業医の或る産業医の先生から、「産業医とは、誰でもなれるのですか」との質問をうけ、うんざりしたのが、つい最近のような気がしますが、今では、その先生方が、我々専属の専業である産業医でも、びっくりさせられるような、鋭い御意見を申されることがあり、もともと産業医にさしたる区別はないはずで、これが当たり前になってきたのかも知れませんが、我々も今後、大いに勉強し、体験をつんでゆかねば、専属産業医は何をやっているのかと笑われることになりそうです。但し、医師会の中のことをとやかく申し上げては悪いかも知れませんが、開業医を含む非専属産業医の先生方の中には、先述の熱心な先生から、全く関心の薄い先生まであるわけで、その程度の差は、大変なものようで、これを又、何とか考えてゆかねばならぬ事と思います。三重県では我々専属の産業医が県の研修会、地域、地区懇談会等で、医師会の先生方にまじって活躍していることは、地方会ニュースでも紹介されております。今年も非専属の諸先生方と手をとりあい、医師会内での産業医

活動に積極的に参加して、大いに非専属の諸先生方及び我々自身の実力の向上をはかってゆかねばならぬ時だと思ひ、新春のプランの中の一すみにつけ加えました。

宇野 鉄次 (愛知県医師会理事・宇野病院)



あけましておめでとうございます。

早いもので地方会ニュース第1号が昭和59年9月に発刊され、2回目の正月を迎えました。そして私も、地方会の理事に加えて頂き2年になろうとしています。地方会の先生方と、医師会のパイプ役が私の役割と思ひ、如何にしたら、

その役目を果たせるかと、たえず有効な方法を考えています。

産業医について申しますと、愛知県は、全国でも有能な専属産業医の先生方が多い事で知られていますが、嘱託産業医に至っては未だ知識、実行力に乏しいと思ひます。今後は之を念頭に置き、立派な産業医を養成したいと思ひます。

労働者の健康を総合的な生活の中でとらえたトータルヘルス、高令化した現代の社会に於ける中高年労働者の健康づくり、いわゆるシルバー・ヘルス・プラン等は、産業医として現代社会のニーズにあった大切な仕事ですが、今後は之に加えて心の衛生即ちメンタル・ヘルス・ケアの問題がクローズアップされて参りました。

昨年11月愛知県医師会にてメンタルヘルスケア講師養成研修会を行った所、産業医、衛生管理者、保健婦、人事労務担当者の方より大変感謝されました。

今年は、自分自身のメンタルヘルスを行うと同時に、この方面に於いて活躍したいと思ひます。先生方の御協力を、よろしくお願い致します。

柏木 正雄 (トヨタ関連部品健保組合)



昭和32年第12回国際労働衛生会議がヘルシンキであったのを機会に、初めて外国の土地をふみ、欧米の安全衛生を学び、経験してきたことがその後の私の安全衛生管理の基本理念となったことはまちがいない。特に西独ボッシュ社での実習は貴重であった。当時集めた資料を読み


かえしみて、西独の Organization はしっかりしていると思う。私の生涯をかけた安全衛生管理は何であったかと考えることもあるが、戦後の無から出発し、今日の安全衛生管理組織ができてきたことは感無量のものがある。

これからはますます災害、事故、傷病のあと始末屋でなく、前向きに対処しなければならないと思うが、フランス・ルノー公団にみる作業条件検討部の構想は、みならなければならないものである。作業条件を事前に検討するには基準がなければならず、このための情報の収集、分析に於けるマニュアルづくりも必要である。人間工学的要素をとり入れ、作業環境を評価し、作業方法、重量物取扱、肉体的精神的ロードなどきめ細かに基準はつくらるべきである。

最近健康保険でもやっと健康管理に力をいれるようにと厚生省の指導がでて、前向きに事業計画を樹てられるようになったが、全般的にみて産業衛生学会加入外の企業では、開業医への依存度が高く欧米の産業医制度との差が著しく、もっと現場の巡視、作業条件の検討に力をいれてほしいと思う。職務再設計の仕事を中心に企業指導を更に強化推進して行きたいと願う年頭である。

初 夢

坂 本 弘 (三重大学衛生学)




年の始めともなると諸事“初”がつく。ただ first in orderとしての意だけでなく、何となく“おめでたい”という意味も含まれてくるようだ。初夢もその類である。夢とは必ずしも現世にあるものとはかぎらない。七福神が出てこようとムーランルージュのカンカンならざるヌードダンサーが登場してこようとということにかまわれない。夢の話といえば、「それが事実かどうか」などとギスギスしたことにならないのが救である。

私はここ数年いや十数年来、夢をみた記憶がない。夢をみる力そのものがすでに失せてきているのか、それとも夢はみているのだが朝になってみると夢をみたという記憶力が失せているのかいづれかはわからない。

一方、来談者からここ10年くらい夢の話をおききするようにしている。登場人物、場面、色彩、動きなど実に多彩である。うらやましい夢の話も多い。誰からも中傷されない世界だけに、来談者も活き活きしてくる。夢とは不思議な媒体である。

夢の話をかきかせてもらう役割から、夢をたのしむ役割になりたいものと思う。今年も何月何日になったら初夢をみるのがかなえられるか期待している。年の瀬を迎える頃になっても願いがかなえられないとするといよいよ年貢の納め時か。

武ノ上 庸 (東亜合成化学工業)




S先生とチームを組んで20年となる。乳児からせいぜい3才児を相手に長い間過してきた私がこの仕事を強制された格好でやりかけたことで不満の期間も長かったが大きな事故も経験し、何時の間にかこの仕事の中に自分の坐る場所も何とか得られた感じで毎日を過している。S先生

は日本の産業衛生の発展のために、年毎に活動の場を拡大して寄与されているが、私はたゞ東亜合成の社員のことだけを考えて過している。男と女のちがいが、生活環境のちがいがいによるものもあるし、性格にもよるが、産業衛生に取り組む姿勢がもともとちがうので20年の間に2人の方向が分れてしまったようだ。最近では意見がくいちがって議論しても腹の虫が治らないなんてことは殆んど無く、お互に情報を交換して「そうですね」と納得できるのである。工場に対して私で済む事もあれば、S先生をわずらわすこともあるがスムーズに運ぶのである。20年たってやっと片腕というか少しは役に立つチームメートになれたかなと思っているのであるが。この2人のチームワークも此頃は先行き不安を伴ってきた。それは年令である。S先生は2年程前に軽い脳血管障害の発作があったがよく克服されて、国内を北へ南へと出かける事も多く重要な会にも参加される活躍ぶりであるが、視力がもとへもどらず虫メガネを使って文献を読んでいる姿も見られる。すこし前には「後をよろしく」と言われれば「仕方がないからやれることだけね」と答えていたが最近「冗談じゃない。どちらが先か解らないわよ」という状態である。

居住環境としてみた宇宙

齊 藤 俊 二 (東海検診センター)




1969年、アポロ11号の月着陸は、地球以外の天体に人類が足跡をのこした最初であった。ハレー彗星の回帰を迎える今年76年前とは比較にならない程の宇宙情報が得られ、宇宙旅行が必ずしもフィクションとは言えない時代である。日本人女性宇宙飛行士も実現しそうな昨今、まだ夢物語りの域を出ないかも知れないが、居住環境としての宇宙、とりあえずわが太陽系惑星の条件を論じて見たい。

先づ太陽に最も近い水星、ここでは昼の温度が摂氏430度、夜はマイナス170度と、灼熱と酷寒の世界、到底住むには堪えない。次の金星はどうだろう。二酸化炭素97%の大気と、濃硫酸のミストによる雲に厚く蔽われ、温度は摂氏480度と、これまた住める環境ではない。一方、火星は昔から生物の存在が期待された唯一の惑星であり、バイキング計画で採取された火星の泥の実験で酸素の発生が認められた時、或いは生物の存在かと疑われたが、結局生物の確認はされていない。有名な運河もその存在は否定された。気温はマイナス80度からマイナス30度の間で、少なくとも人間の居住環境としての可能域にやや近いと言えよう。更に遠くの木星・土星等外惑星になると、アンモニアとメタンガスに閉ざされた永久凍結の世界で、もちろん住むには論外である。

こうして宇宙レベルで見ると、わが地球はいかに人間にとって住みやすい天体であろうか。われわれ人類に与えられたこの最大の贈物を、大切に維持することの必要を痛感する。

宮 田 昭 吾 (岐阜大学公衆衛生学)



近年における社会的変化は著しく、労働衛生分野においても、その内容の分化は著しい。先日ストレス学会の第一回が開かれ、産業医学分野からの出席者も多く、また多くの職種の方々が参加しておられた。多くの学問の実践分野には多くの専門家が必要であるとの想いを一層深くした。しかも各専門分野からの発表は、ストレスとは重要な課題であると思っていた私には皆目発表の要旨も充分わからなかった。

最近労働衛生分野の人々の中から地域保健分野の必要性を痛感し、その分野を学ばねばとの気運がある。産業の分野に、地場産業と特長ある地域集団があり、産業都市とも言われる地域がある以上地域保健と産業分野との連携した活動は当然であるが、その主導は何れの分野が占めるのが適当か等、考えさせられる。

私は各種の専門家をうまく連携させるべき方法を考えることこそ公衆衛生学の重要な分野と考える。他人の領域を卒直に認めあい、相互が連携し合って初めて目的は達成される。学問の分野においても自分の守備範囲を守り、他職種の持つ夫々の特異性を利用し、多くの人々が連携することが実践分野では特に重要と考える。



— ルポルターージュ —

ファインセラミックス産業

— 華やかな業界を支える熾烈な技術競争 —

柏木時彦
加藤保夫
久永直見

近年のファインセラミックス産業の発展は目覚ましい。産業衛生関係者の間でも、そこで使われている材料、新しい産業衛生上の課題などにつき関心が高まっている。そこで今回レポーターらは、少しでも生の状況を知ることができればと現場訪問取材を行った。

1. ファインセラミックスとは

ファインセラミックスは、原料が高度に精選された微粉体である。化学組成が厳密に調整されている、精密制御された条件下で製造される等の点で従来のセラミックスとは区別される。現在では、表に示したようにファインセラミックスの用途は宇宙開発からレジャー用品まで広範にわたり、材料としてはアルミナ、窒化珪素、窒化炭素、酸化ジルコニウム、チタン酸バリウム等多種類が用いられている。

2. 東海地方のファインセラミックス産業

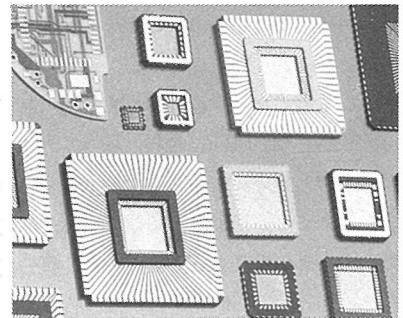
わが国のファインセラミックス関連製品生産額に占める東海各県の比率をみると、電気用特殊陶磁器は愛知が19%、岐阜が2%、理化学用、工業用陶磁器は愛知が64%、岐阜が1%で、いずれも愛知の生産額が全国一である(1983年度工業統計表品目編)。ファインセラミックス製品製造工場数は、三重4カ所、岐阜5カ所、愛知45カ所であるが愛知の中でも28カ所は瀬戸市に存在する(ニューセラミックス懇談会報告書、1982年)。そこでレポーターらは、瀬戸市に愛知県陶磁器工業協同組合を訪ねた。そこで同った同市を中心とした地区のファインセラミックスの現状は次のごとくであった。同組合のファインセラミックス部会は54社からなるが、そのうち現在既にファインセラミックス製品を製造しているのは18社である。原料は自前ではなく外の大企業から購入して、アルミナ磁器、IC基板、ジルコン磁器、紡織機用糸道、耐磨耗メカニカルシール等を製造しており、中には単結晶ウエハーの生産でトップクラスの技術を持つ企業もあるが、生産内容の詳細は企業秘密のため組合でも十分には把握できない。一部の企業は食器、ノベリティも生産している。企業の成り立ちをみると、ファインセラミックス生産のために新設された会社が1社あるが、他の会社も多くは以前からの磚子、磚管などの工業用品の製造経験を踏まえてファインセラミックスに進出している。食器やノベリティの業者の新規参入には、技術上も、資金上も(数億円の投資が必要)容易ではない。18社の従業員数をみると100人以上が2社、50~99人が5社、49人以下が11社で、中小規

模の企業が多いとのことであった。「ファインセラミックスに取り組んでいる企業の経営者は、一般に非常に勉強熱心です。」との言葉に、開拓者の意気込みが感じられた。

3. 産業現場

ファインセラミックスのようなハイテク産業においては、技術の熾烈な競争から生産活動の実態は、まだほとんどがベールの向うにあるようである。しかしこうした中で、産業衛生活動にご理解の深いIC基板等のエレクトロニクス製品を製造している2企業の現場見学の機会を得たので、その概要を報告する。

A社は2つの工場を有し、従業員240名(研究部門15名)からなる中堅企業である。瀬戸地区で戦前からアルミナを主原料とした磚子を製造し



ていた。いわばこの地区でのファインセラミックスの先駆企業ともいえよう。当初私達は、この地区でのファインセラミックスとは、窯業として食器類を製造していた企業がたまたまこの分野に進出してきた程度に単純に考えていたが、この種の企業ではそういう例はほとんど無いそうである。その一番大きな理由として、今日のファインセラミックスの需要はきわめて変動が激しく、また次々と新素材が開発され、その急速な技術革新に対応していくためには、新しい次元での高度な技術とそれに見合った資本が必要となるためである。つまりオールドセラミックスとファインセラミックスとでは、ベースになる生産技術の質に雲泥の差があるのだ。中小企業がこの業界で生き延びていくには並大抵の努力ではついていけない。「多種少量生産」「自主独立」「経験をいかした研究開発」というこの会社の社是に基づき、「小回りをきかす」「低コスト」という中小企業の利点をいかして生産活動にまい進している。技術情報に関しては、外部機関(市役所・愛知県陶磁器工業協同組合等)が主催する相談コーナー・研究会・講習会などのレベルでは一般的すぎて対応しきれず、そのために会社として大学、研究所等の専門家を抱えているという。ところが、製造現場は一見して一般の窯業とあまり変っているようにはみられない。しかしよくみると、例えばレーザー加工、検査工程などには1台千万円以上はする高価な機械が並び、やはり一味ちがった雰囲気をもっていた。製造工程は、図-1のようである。非常に行き届いた案内で現場を見終り、外にでてみるとトラックに山積みされているIC基板の不良品をみた。製品の歩留りのきびしさとファインセラミックスのもつ工業的特殊性の一面をみた思いがした。

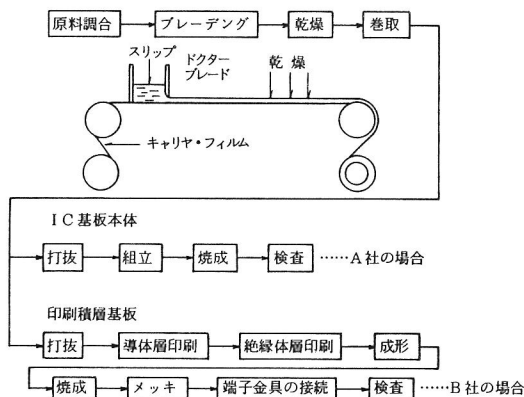
次に今一つのB社は、名古屋市に本社があり県外にも2工場をもつ従業員約2,000名(研究部門150名)の大手企業である。営業品

表1 ファインセラミックス製品と材料の例

宇宙・エネルギー開発	: SiC, BeO, B ₄ C, UO ₂ , Eu ₂ O ₃
電子	IC基板: Al ₂ O ₃ , SiC コンデンサー: BaTiO ₃
機器	圧電素子: Pb(ZrTi)O ₃ , LiNbO ₃ 光ファイバー: SiO ₂
産業機械	切削工具: C-BN, TiC, WC 研磨材: Al ₂ O ₃ , B ₄ C メカニカルシール: Al ₂ O ₃ , SiC 糸道: Al ₂ O ₃
自動車	触媒ペレット: Al ₂ O ₃ エンジン: Si ₃ N ₄ , SiC ノッキングセンサー: Pb(ZrTi)O ₃ プラグ: Al ₂ O ₃
医療	人工歯・骨: Al ₂ O ₃ , Ca ₅ (FCl)P ₃ O ₁₂ , Ca ₁₀ (PO ₄) ₆ (OH) ₂
スポーツ	スキー板: SiC ラケット: SiC 釣棒: SiC, Si ₃ N ₄
日用品	ゴルフクラブ: ZrO ₂ 刃物: ZrO ₂

目は、洋食器と特殊磁器部門に分かれている。特殊磁器としては、IC基板等のファインセラミックス製品である。この会社は戦時中航空機の部品を製造していたが、終戦とともに高級洋食器の製造に転換し、やがてその技術をいかして工業用特殊磁器の開発に成功した。そしてその技術を背景にファインセラミックスの分野にも進出し、昭和57年技術研究所を設立して現在に至っている。企業規模が大きくなるにつれ研究開発への投資が大きくなったという。この会社が他の中小企業とちがうところは、IC基板を製造するだけでなく、配線・端子の付加価値を加えていることである。この配線と端子には、更に高度な技術革新の波がおおいかぶさってきている。薄いIC基板には実に38層の配線が印刷されているという。またICの集積度(バイト)は年々向上し、昨年の質のものはレベルが転落し、今年の価格は昨年の5分の1になるといった現実的側面からの影響も無視できない。だから、研究開発の能力の質と大きさが直接企業存続の要になっているといっても過言ではない。「IC関係だけの製品を作っていると、この波を全面にかぶってしまいます。この部門で過去に一世を風靡する栄光にあったアメリカの某社は、その対応を怠ったがために、一転して奈落の底につき落され、会社自体が消失してしまったのです。このくだりにきて一瞬、重役の柔和な顔がひきしまってみえた。「これまでは、この種の問題についての技術情報がクローズドであったが、漸くこの二、三年ではかなりの情報がオープンになりはじめています。当社では、アメリカの学会で最新の研究成果を発表する予定です。」とも話された。あれこれと話ははずんで時がたつのも忘れ、気がつくと短かい晩秋の窓外はすっかり暗くなっていた。事務所をでると食器工場の灯は既に消えており、帰宅を急ぐ従業員の列にすれちがった。この本社工場では、ファインセラミック製品を作っていないので、依然として煌々と明るい技術研究棟を見学した。そこはよく完備されたクリーンルームになっており、研究者は無じん服を着て作業している。ここでは、衣服の毛糸・繊維はおろか汗・ふけ等の混入まで許されないのである。当然私共はその中へ入れなかったが、窓越しに最新鋭の機械が居並ぶ様子に実際の製造現場を思い浮かべて、内心驚きの眼をみはった。

図1 IC基板等の製造工程



4. 今後の展望と衛生管理上の問題点

前章で述べたように、ファインセラミックスの用途とその素材は多種多彩を極めてている。La, Hf, Li, Y, Zr, Bi, Be, Ti, B, Ba など元素としてもほとんどなじみのないものばかりで、これらを管理し確実に把握することになると、とても容易なことではない。

こうしたファインセラミックスの衛生管理上の問題としては、第一にはその特徴である微細粉体という物理的な性状であろう。一般にじん肺を起こすには0.5~5ミクロンの粉じんが有害とされている。しかしこれは0.5ミクロン以下の粉じんに害が少ないということではなく、むしろ肺胞への沈着率は、細くなるほど高くなることが考慮されねばならない。また肺の処理能力や線維増殖能が個々の吸入粉じんの数によっても影響されるとしたら、全体の重量は小さくても、より細かい粉じんが多数吸入されることは軽視できない。この点については、現在の粉じん測定法では微小粉じんが正確に把握できない欠点を持っていることが一考されねばならない。



次に化学的な影響については、全く新しい合成物質も多く含まれており、それらの有害性は必ずしもよく知られていない。例えば、三大セラミックス原料の窒化珪素、炭化珪素、酸化ジルコニウムだけを見ても、ジルコニウム塩で、皮膚炎及び皮下肉芽腫が起きることが報告されているにすぎない。また素材の中には生体に対してアレルギー性反応を起こす物質も含まれている。こうした物質の場合は必ずしも量-反応関係は成立するとは限らない所に対処の難しさがある。また、健康影響という点では、原材料だけでなく、これらの他に添加剤や結合剤として使われる新しい物質についても積極的に関心を持つ必要がある。

次に、量的な問題については、ファインセラミックス用の原料の優秀性から、近い将来経済的な折り合いさえつければ、これをオールドセラミックス的な用途に使用する可能性もあると聞いている。現に製鉄用の耐火物に、ファインセラミックス用に近い微細原料が10%近く混合されて使われていることもあり、そうした現場の状況は恐らくクリーンルームに象徴される、ファインセラミックス産業のイメージとは程遠いものがある。

また、ことファインセラミックスに関しては、現段階では開発過程にあるということ、企業秘密というカベが厚く、こうした閉鎖性が障害の予防に遅れを招き、健康対策が後追いのなる恐れもある。この点、産業医や衛生管理担当者は、原材料の構成成分及び有害性を知りうる立場にあり、また研究者としては、種々のファインセラミックス原料成分について、健康影響(アレルギー、発癌性も含む)に対する関心を高める努力が必要であろう。また、行政サイドからは、ファインセラミックス原料の混合成分の表示を義務づけ、有害性が明らかになったものについては、すみやかに行政指導なり、関連する予防措置をとりうる体制を確立せねばなるまい。

いずれにしても現在ファインセラミックス業界は、新しい製品の開発に総力をあげている段階で、それにかかわる衛生問題まではとても頭がまわりきらない状況にあるといっても言いすぎではない。こんな時にこそ、本産業に関連する健康障害の発生防止のための具体的な管理体制づくりとその実践に向けて、我々産業衛生に携わる者が力を合わせていくことは、極めて重要な課題としてある。

最後に、この報告に御協力いただいた各企業に対し心から感謝の意を表したい。

最近の学会研究会活動

日本産業衛生学会東海地方学会

11月22日、晩秋とはいえ小春日和の暖かい日差しに楓の木立が赤々と照り映えた名大病院構内。その一角に建つ壮麗な鶴友会館で、名大衛生の竹内康浩教授を会長にして昭和60年度の日本産衛学会東海地方学会が開かれました。早朝9時からの開会というのに、会場の座席は半分以上埋まっていたようか。盛會を占うかのような好調な出足のなかで、一般演題の発表から会が始まった。

今年の学会は、運営にいくつかの新機軸が試みられたことが特徴。少しでも意義のある学会にしようという名大衛生の先生方の熱意がうかがえ、敬意を表したい。その1つが、従来1演題2頁立てであった講演集を1～3頁立てとされたこと。「内容が少ないために出題を遠慮されたり、反対に2頁以内に収めようと文章や図表を圧縮省略されたりしなくてもすむよう、できるだけ気軽に出席して貰いたい」(名大・竹内先生)という配慮から、紙幅に幅を持たせたとのこと。因に25題の一般演題のうち、1題は1頁、7題は3頁で、竹内先生の意図は成功したと言えよう。特別講演の1つを11時に組まれたのもよかった。一般演題に緊張して耳を傾けられるのは、せいぜい2時間。そこで場面転換が図られると、不思議と疲れを忘れる。効果的な演出だったと思う。

さて、25題の一般演題は、内容からみると最近の労働衛生の話題を総覧できるほど多彩。フィールドワークに基づいた調査・研究が多く(15題)、産業現場の会員の方も興味をもってお聴きになったのではなからうか。小出氏(トヨタ自動車)の「皮膚炎評価法の検討」は、着想の奇抜さで私の関心を引いた発表の1つ。切削油による皮膚炎の発症危険度を、いくつかの発症要因を数量的に重みづけて総合的に予測したもので、このような数量的な手法が一層洗練されると、他の一次刺激物質による皮膚炎の予防対策にも威力を発揮するかもしれない。その他の一般演題も活発な討議がなされ、進行が大幅に遅れたほどであった。

特別講演は2題。最初が「接触皮膚炎の原因物質の解明—最近の進歩」と題して名大分院皮膚科講師の早川律子先生が、自験例を素材に歯切れよい口調で講演された。「薬を塗るだけではなく、原因物質は何か、代替物質はないか、消費者の段階で接触皮膚炎を避ける旨い工夫はないか、を考えるのが皮膚科医の最も大切な仕事です」と、教訓的な言葉で話を締めくくられたのが印象深い。次に、名大精神科教授の笠原嘉先生が「職場の精神衛生—最近の話題から」と題して、最近文明国で急増している健康と病気の境目にある軽症うつ病の全体像を中心に判り易く解説された。「メンタルヘルス研修事業」が実施されようとしている今、時宜にかなった好企画であった。

学会終了後、恒例の懇親会(約40名)。宴たけなわとなり、赤らんだ顔に喜色をたゝえて「今回は学会も懇親会もともに充実し盛會であった」と述べられた地方会長島先生の言葉に、今年の学会の様子は言い尽されていよう。

河 合 信 (岐阜大学公衆衛生)

第1回 作業負担研究会

当研究会は、日本産業衛生学会東海地方会の研究会として発足したもので、第1回研究会開催日の9月24日は雨模様にもかかわらず58名もの参加者があった。

講演に入る前に世話役の入谷先生(トヨタ自動車)、東海地方会長の島先生(保健衛生大学)から研究会発足についての主旨説明が行われた。

引き続き世話役の竹内先生(名古屋大学)の司趣会で、1.中高年労働者の労働適応能力 2.最近の国際会議からの2題の講演が行われた。概要は次の通りである。

最初に労働省産業医学総合研究所の山本宗平先生より「中高年労働者の労働適応能力」と題する特別講演が行われた。この中で、作業負担には肉体的作業と精神的作業とがあり、肉体的作業の評価については労働生理や運動生理の中でいろいろ提案されているが、精神的作業での評価は現在のところ適当な方法がないとのことであった。高令者の機能については、現在のME化は高令化社会の中で進行しつつあり、高令者の労働への適応の問題も考慮する必要があると述べられた。そして、中高令者の機能の問題を神経系の問題として研究を進められているとお話であった。

講演では、多くのスライドが使われ興味ある内容が多かったが、まだまだ解決すべき課題は多いように思われた。また、講演終了後の質疑も活発に行われ、参加者の関心の強さを示していた。

次に名古屋大学の小野雄一郎先生の「最近の国際会議から」と題する講演が行われた。「第10回国際バイオメカニズム学会(スウェーデン)」および「労働とリウマチズムの疫学シンポジウム(西ドイツ)」への参加報告で、日本に比べヨーロッパのレベルもそれほど高くないが、障害に対する検討のしかたが多角的であり、これらの問題に対する関心はたいへん高いとのことであった。報告の中には興味のあるテーマもあり、国際会議に参加する機会の少ない者にとって、このような報告は今後ともぜひ当研究会に取り入れていただければと思う。

最後に、今後の研究会の進め方について意見交換が行われ、腰痛や上肢痛等のテーマについて、職場での改善報告や専門の先生方の講演の要望が強く出された。尚、具体的には事務局でまとめられるとのことである。

加 藤 隆 康 (トヨタ自動車)

第39回 日本産業医協議会

11月9日、大阪YMCA会館において参加人員約130名で開かれた。大武八郎氏は産業医活動委員会報告として(1) 産業医は現在の法的規制はないが専門職として法的に認めてほしい。(2) 中小企業グループとして産業医を選任すべきである。(3) 産業医研修会の充実、臨床医学研修会との連携を計り、産業医として産業医学の知識向上をすべきである。とのべた。

阪大環境医学教授中川米造氏は特別講演「労働と健康の未来像」として(1) 予測は難かしいが健康のイメージも時代と共に変化していく。WHOのヘルスプランニングも、定義、内容ともに見直すべき点もある。(2) 現代人は半健康者であり、産業構造の急激な変化によって、身体的精神的有病率は増加の傾向にある。(3) 医療も社会

の健康保障には充分対応出来ないのが最近の状況である。(4) 職場の環境も変化して行くので職業性疾病の予防対策は最も大切である。とのべた。午後、労働と成人病管理に関するシンポジウムが行われた。

大谷 誠二 (東レ名古屋)

全国産業安全衛生大会

11月6日より8日まで大阪市大阪城ホール他16会場で参加人員約16,000名で開催された。労働省労働基準局長小粥義明氏は「安全衛生行政の現状と今後の方向」と題して(1) 労働者の高令化が諸外国に比して2倍以上のスピードで進んでおり、今後この傾向は更に早くなる。これに対応すべき対策が肝要である。(2) 労働災害も高令者に多く、強度率、死亡率も増加している。(3) シルバーヘルスプランを更に強化して高令者の健康保持増進を計り職場適性の向上に努力すべきである。(4) 技術革新に伴う職場環境、ME、OAによるストレスの増大など、環境面、精神面の管理が益々重要となる。とのべた。

ついでミヤコ蝶々氏は「生きることと笑い」という演題で彼女独特の関西弁でユーモアを交えて自分のこれまでの体験談を話した。会場は満員の盛況であった。彼女の人生観は怒ることより笑って暮らす方が、あらゆる面でよい。男は働き母親は子育ての責任がある、ところが母親は子供を放任しておりその結果非行に走る。母性愛に欠けているようだ。南都雄二氏との問題にもふれ人情味のあるエピソードなど笑いのある話もあった。要は彼女の人生哲学を万歳風に語り聴衆を引きつけたことにあったと思う。

演題としてはメンタルヘルス、シルバーヘルスプランなどが例年より多く発表された。次回は横浜を中心として、10月中旬頃の予定である。

大谷 誠二

作業環境測定講習会

去る10月28日、愛知県産業貿易館において、作業環境測定講習会が開催され、参加者も150余名を数えた。

冒頭、愛知労働基準局労働衛生課長宮宅氏の挨拶のあと、名古屋大学医学部の竹内康浩先生による『有機溶剤の生体におよぼす影響について』の特別講演、続いて日本作業環境測定協会東海支部より『最近の作業環境測定に関する主要な問題点』についての説明があり、皆さん同様、私も熱心に聞き入った。

作業環境測定士のひとりではあるが、有害要因の生体に及ぼす影響、保健衛生等については疎く、そのためか、竹内先生の講演は聞くところが多く、有機溶剤の怖さを改めて認識した次第である。ガソリンにも30%程度のn-ヘキサンが含まれているため末梢神経障害を起こすこと、トルエンの高濃度曝露による脳萎縮が認められたこと、また、特殊毒性として、トリクロロエチレンやパークロロエチレンでマウスに肝臓癌が発生したこと、水溶性溶剤として使用されているセロソルブ類でマウスの生殖障害が認められたこと等である。

私の所属する機関で作業環境測定を実施している事業所は、中小企業が多い。これらの職場では環境の設備も不十分な所が多く、末端の作業者までは労働衛生教育も十分に行き届いていないのが実際である。作業環境測定士のひとりとして、今回の講習会で得た知識

をも含め、事業所への労働衛生教育を前向きに進めていきたいと考えている。 浅野 正秀 (豊昌会 豊田健康管理クリニック)

第25回 日本労働衛生工学会

第25回日本労働衛生工学会が学会実行委員長、大阪市立大学医学部教授堀口俊一先生によって、昭和60年11月29～30日の2日間、大阪市西区売堀、建設交流会館に於いて開催された。第1日目はシンポジウムが開催され、9時30分の堀口委員長の開会の辞に引続きシンポジストの講演に入る。テーマは「有害光線の測定、障害および対策技術に関する労働衛生工学的問題点」であった。座長は京都工場保健会小川捨雄先生、三洋電機保健センター原田章先生のお2人である。午前中は物理的特性と測定技術の現状について講演あり。有害光線の波長領域である3種類、紫外光、青光、赤外光の相対効果曲線と、測定方法の紹介があって活発な討議あり。次いでアーク溶接による眼障害をアンケート調査した発表を以て午前中は終る。午後からは関西労働衛生技術センター所長、原田章先生の座長で、溶接アーク光は紫外線のほか可視光、赤外線、マイクロウェーブまで広帯域分布のため急性、慢性眼障害を引起す可能性があるよし。又翼状片発生者が多い傾向にあるとの事。次いで遮光保護具の製品による長所、短所についての講演あり。第2日目は、会場を2分して第1会場は有機溶剤と溶接に関連ある演題23題、第2会場は粉じん測定に関する演題22題計45題を夕刻5時過ぎまで講演と討議が行なわれ盛況裏に幕が閉じられた。尚昭和61年度第26回総会は、労研の木村菊二先生を実行委員長として、東京都文京区、後楽園会館において実施される予定。 武田 正義 (公衆保健協会)

第6回 作業環境測定研究発表会

去る11月27、28日の2日間にわたり、大阪市の建設交流館において、「第6回作業環境測定研究発表会」が開催された。

今回は演題も25件あり、また、2日目午後には「粉じん測定の諸問題」と題して、シンポジウムが開かれるということで参加者も300余名を数えた。

冒頭、現在の日本の作業環境測定における評価の考え方が全世界から注目されている旨が報告されたあと、研究発表に入った。今回の発表のなかで興味を引いた内容も多かったが、やはりシンポジウムが最も有意義なものであった。はじめに、産医研の本間氏による「K値」の変動について、北里ヘルスサイエンスの小西氏、早稲田大学の名古屋氏による「遊離ケイ酸含有率」について、各々発表があり熱心に聞き入った。その後、質疑応答に入り、現在疑問に思っていることを3氏から答えていただくことができ、大変満足であった。今後も研究発表会等のプログラムの中に、このようなシンポジウムをどしどし取り入れてほしい。

加えて、今回の研究発表会では、1日目の発表終了後、懇親会が行われた。今までに、作業環境測定に関係する測定士、研究者等が相互に懇親を深める機会がほとんどなかったためか、懇親会は盛況のうちに終了した。

先に述べたシンポジウム同様、懇親会も相互の懇親を深めるだけでなく、情報交換を行うことができる絶好の機会であると考えてるので今後もどしどし取り入れてほしい。 浅野 正秀

東海地方会史編纂を終えて

井上 俊 (編集委員長)



理事会のたびに理事の先生方からハッパをかけられて、ようやく産衛東海地方会史編纂の仕事を終えた。地方会史を作ろうという話が出てから6年、正式に委員会ができてから3年余りたってしまった。遅れたことをまづお詫びしなければならないが、この作業をお引受けして、いろいろと勉強させて載いたことにお礼を申し上げたい。

遅れた理由の一つには資料収集の困難さがあった。戦争がはさまったことにもよるが、このことから、仕事をする場合には、いつも、その仕事は歴史の一頁になるということを考えにおくべきだ、と思った。今の仕事が次代のための仕事にもなると考えれば、責任をもった創造的な仕事もできようし、次代の人達のために、しっかりした記録を残し、それを大切に保存する配慮も生れるだろう。

資料をまとめにかかって、こんなことを考えた。まず、資料をただ日記のように並べても歴史にはならない、ということである。歴史的資料は、その資料を取りまく当時の状況とともに語られないとその価値が出てこない。さらに、なぜ、そのような資料の内容が、そのような当時の状況の中に生れることになったのかを掘り下げてゆく時に、歴史の編纂という仕事はおのずから社会科学的研究にまで高められる。それは人間そのものの理解に役立つ仕事になるからである。しかし、人間にあまり興味を持って歴史を書く、歴史小

説ができ上ってしまう。歴史小説の作者は、作者の頭の中の史上の人物の人間像を、大衆に伝えるために、著しく史実を曲げることも、作話することもいとわない。こんなことを考えながら、地方会史はどうあるべきかと考えた。

地方会史は、地方会を構成してきた人達、共同体の歴史である。諸行事のら列では意味がないし、フィクションを交えることもその意図ではない。この委員会としては、資料より得た史実をその時代的背景とともに忠実に会員に伝え、その判断、解釈は会員に任せるよりない、ということになった。会員一人一人の判断が、今後の東海地方会を支え、発展させるフィロソフィーを作ってゆかれることを期待してのことである。

具体的作業としては、約50年にわたる数々の地方会行事のそれぞれをなるべく正確に記録に残すとともに、それらに責任をもって取り組まれた会員の方達にお願いして、その意図する所などについて自由に解説的に執筆して載いた。そして、それらを総括して、各編に、その時代的背景とともに、梗概が記述されている。

これは、産衛東海地方会員の方達の共同研究の成果である。執筆を分担された編纂委員8名の方及び委員外の14名の会員の方達とともに、この完成を喜び合いたい。

地方会史が全会員のお手元に届くのは恐らく春先になるであろう。各位からの忌憚のない御批判をお待ちしている。

県 だ よ り

◀ 愛知県 ▶

60年9月23日* (秋分の日)、県医師会産業医部会主催の産業医研修会が行なわれ、今回はトヨタ自動車と和光化成工業の工場見学会が行なわれた。参加者が約120名にも達し、主催側では予想外の盛況にうれしい悲鳴をあげられたとのことである。この盛況は医師会員に産業医学に関心を持たれる方が増加して来たあかしと見れば非常によろこばしいことであるが、今回の見学先が何にしても世界のトヨタ自動車であったことを考えれば、多少割引して考えた方がよいかも知れない。

小 森 義 隆 (大同病院)

◀ 静岡県 ▶

8月12日 精神健康対策講演会『職場の精神衛生について』

講師 大阪府公衆衛生研究所 夏目 誠 氏

8月20日 第4回労働衛生専門委員会

『障害防止対策実態調査結果検討、問診項目検討』

9月26日 災防部会、労働衛生、産業医分科会

『第3.4期以降の事業計画の具体的推進について』

『傷病休業統計調査結果について』旭化成富士支社 牧角 淳

『振動障害防止対策実態調査結果について』

三菱電機静岡製作所 清水 善男

『企業における定年延長と高令者対策』

東芝機械津津事業所 島村 道男

10月23日 メンタルヘルス研修実行委員会

11月18日 第5回労働衛生専門委員会

振動障害防止対策『手持振動工具、引金付工具取扱者の自覚症状しらべ』 牧 角 淳 (旭化成富士診療所)

◀ 岐阜県 ▶

当県では産業衛生研究会の会員は、現在大企業の産業医と衛生管理担当者が中心となっているが、会員数が少ないため今後それを従業員100前後の企業まで枠を広げて、会員を拡充することを定め役員を中心として規約改正案を作り、各地区の労働基準協会を通じて有志の加入の勧誘をはかることにした。今後会員の増加により、職種別、業種別等の共通問題について話題を提供して、衛生管理の活性化を図りたいと考えている。

7月31日 1. 臨時総会 (規約改正のため)

2. 職業性発がん物質 真鍋 貴 先生

9月30日 1. 傷病休業統計の結果からみた最近の疾病の動向

2. 有機溶剤中毒 (CS₂中毒を中心として)

この二題については筆者が担当した。

井 田 龍 三 (岐阜簡易保健診療所)

◀ 三重県 ▶

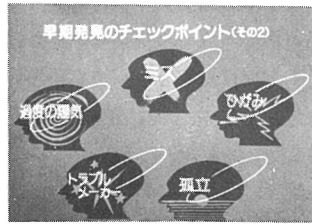
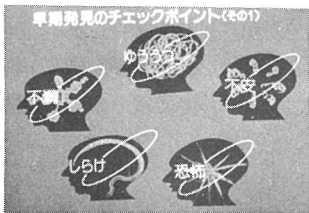
第2回三重産業医会研究会は8月6日「作業場有害物質濃度と個人暴露量」をテーマにして開催された。司会の坂本教授から主題についての教育的解説がおこなわれ、続いて労働衛生コンサルタント(工学)の村田和弘氏から物理的有害環境におけるスペースモニタリングを中心に話題提供があり、測定に際しての問題点について指摘がなされた。また、環境測定士の大門俊宏氏は化学的有害環境について、第69号通達による管理濃度と管理区分決定までの手順を詳細に述べられた。暑い日ではあったが多数の会員が参加し、大変有意義な会であった。

滝 川 寛 (三重大衛生学)

話 題

メンタルヘルス スライド作戦

“精神衛生”という言葉は素人の人々にとっては、イコール、精神病対策と受けとめられるきらいがある。近年いろいろと云われている様に産業の発展によって、企業組織の中で働く者の思考の多様化によって、情緒不安定者の増加が目立つ様になった。殊に産業現場は生産遂行という至上命令をもとに機能しており、生産遂行を阻害する行動行為総てが職場不適応者として管理監督者をなやませしてきた。これらの行動は多くは客観視出来るものであったが、技術革新で労働の質の変化は客観視出来ない個人がもつ内的変化が生産遂行への影響が目立ち、真面目で熱心な態度をとっている人が或る日突然愁訴を暴発させるといった非顕現化した不適応者が多くなり益々管理監督者の管理上、部下の行動観察が重要になって来た。私共は発症した、うつ病、抑うつ状態、神経症等疾病対策は別として顕現化以前の背景を把握する必要性を痛感し、メンタルヘルス対策委員会を設置し（各製作所の人事労務課長で構成）、関連する職務の中で、メンタルヘルスの要因を分析しアプローチの方法論を検討して体系化したメンタルヘルス読本を作製し全管理監督者に配布した。



- (1) 人事処遇上の問題、転任、転勤、単身赴任、応援、長期出張、出向、60才定年延長等々。
- (2) 職務遂行上の問題、新技術技能の習得、既存技術技能の陳腐化、経営合理化に伴う仕事の量的、質的変化、交替制勤務、国際化に伴う対応。
- (3) 家族家庭の問題、核家族、親子の断絶、夫婦の絆の弱まり、転任に伴うストレス。
- (4) 職場における人間関係の問題、生活様式の変化、職務遂行態様の变化（分業管理システムの向上、ME、OA、FA、etc）マイカーの普及によるアルコールリレションの減少。
- (5) 精神衛生管理体制、担当部門の充実、精神障害者に対する具体的方策、一般啓蒙活動の不足、管理監督者の無関心。

等々といった問題が挙った。メンタルヘルス読本で具体的方法論を述べても仲々理解されない。これを普遍する目的で、絵で理解を求めようと“スライド”を製作することとした。メンタルな要素を絵で表現することの難しさを痛感、現状の写真とイラストを併用してやっと60年10月労働衛生週間に完成封切することが出来た。

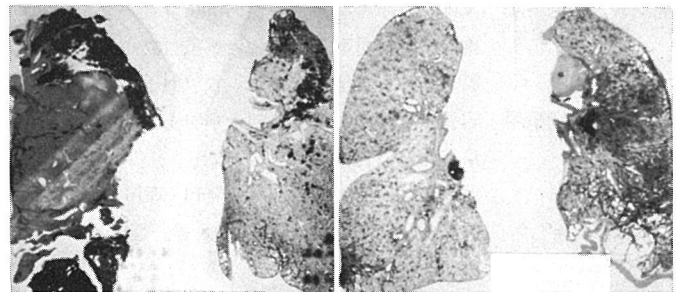
森 川 利 彦（三菱電機）

じん肺と肺がん

近年じん肺症の患者に肺癌の発生が多いという意見が方々より出されております。労働省も昭和51年9月に「じん肺と肺がんとの関連に関する専門家会議」を発足させ、この問題について検討しております。その結果は昭和53年10月に報告書としてまとめられました。小生の所属しております労働福祉事業団も全国の労災病院並びに産業医科大学とでプロジェクトチームを結成し、昭和54年より調査を始めました。調査の内容は昭和54年から58年での5年間におけるプロスペクティブスタディ（前向き研究）で、その結果は第32回日本災害医学会（昭和59年）において報告されました。旭労災病院からは吉野副院長がチームに参加しております。そこで今回の話題としてその調査の概要を紹介させていただきます。

調査の題名は「じん肺と肺がんー労災病院集計成績ー」で、研究者は珪肺労災病院の千代谷慶三院長をはじめ全国12カ所の労災病院並びに産業医科大学のメンバー14名です。調査の基本的な姿勢は、この種の研究は疫学的調査が行いにくいことから、とりあえず自験例を中心に調査を進めることと、プロスペクティブスタディを行うことです。方法は昭和54年1月に全国11カ所の労災病院の男性じん肺患者3335例を登録し、以後昭和58年12月まで5年間前向きに経過を観察するといったもので、その中より肺癌による死亡率及びその背景因子を調べるということです。

さて結果をみますと、調査の殆んどは珪肺症及び炭珪肺症である（96.5%）としながらも、肺癌による死亡率は全死亡例中13.7%と一般人口に比べて高率であること（標準化死亡比4.3）、又その背景因子として職種、胸部X線病型及び粉じん曝露期間との関係は明らかではないが、喫煙状況とは関係がみられ、過去及び現在に喫煙習慣のある者は肺癌による死亡率が高いとしております。



54才男性 碍子施釉 16年 60才男性 珪砂粉碎 15年
けい肺、右葉肺癌 けい肺、左上葉肺癌

なお考察では臨床的な問題にも触れ、じん肺において肺癌の出現を診断することはじん肺の陰影の陰になって困難であること（従って早期発見しにくいこと）、又早期に発見されたとしてもじん肺による低肺機能の為、手術可能例が少ないことをあげております。

以上が労働福祉事業団のプロジェクト研究の概要ですが、もしじん肺症が肺癌の発生母地として大きな要因であることが事実ならば、因果関係の確証を得ていない現時点といえども一早く、我々はこの恐ろしい病気からいかにじん肺患者を守るべきかということについて取り組む必要があるのではないのでしょうか。

五 藤 雅 博（旭労災病院）

新年明けましておめでとうございます。

私は現在実験的カドミウム中毒を免疫組織学的観点より研究しております。仕事の関係上他の医療関係者との接触の場が極めて限られており、不満と不安を感じている昨今です。情報交換の場としては関係分野の学会が適当と思われませんが、実際にはそれが機能していないもどかしさを感じております。又、医療に従事しておられる方の中にも、他の研究者との協同研究を望んでいる方もおありのことと思います。そこで私は常々、情報センターなるものの設置を願っております。すなわち研究者は過去の研究経過、技術的バックグラウンド及び指向する研究分野を、一方、医療関係者は現在持ち合わせの興味ある症例、実験的に裏付けるためのアイデア等を登録し、その情報を互いに照会し得るような交流の機関を求めている者であります。このような場を通じ、互いの利点を補完し合い、共同研究の進展がはかれるものと考えております。

最後にこの場をお与え下さった関係者に謝意を表すると共に、会員の皆様の一層の御活躍をお祈り致します。

西村典子(愛知医大衛生)

新春の抱負

産業医としてのレベルアップはめざましいものがあります。然し産業医、産業保健婦、産業看護婦、衛生管理者、作業長、工場主任等一連の医療従事者の連絡及協力体制を考えますと、未だ充分とは申せません。又下請の中小企業の衛生管理の体制も親会社の専属産業医の下に指導されるのか、医師会産業医部会の下に嘱託産業医に指導されるのか、明確な体制作りはなされておられません。今年こそ各郡市医師会の産業医部会の指導の下に、体制の明確化をしてその地域の産業労働者の全体の衛生管理をする時が到着していると考えられます。

大会社の健康管理の向上と同程度に中小企業の衛生管理も強力におし進め職域の格差をなくする様にすることの急務を痛切に感じております。諸先輩の築かれた立派な足跡をよりよくする為に私達若輩はさらに研習努力して行かなければならないと年頭に感ずる次第です。

服部保次(富士電機鈴鹿工場)

地方会理事会

第3回理事会 8月17日(火) 大同特殊鋼本社 出席26名

- A. 報告事項 本部及び事務局からの連絡事項(島、立川)
地方会関連研究会等の報告事項(立川)
地方会ニュース(第4号)発刊(岩井)
- B. 協議事項 昭和60年度東海地方会学会(竹内)
東海地方会史編集状況(井上)
地方会ニュース(第5号)発刊(岩井)
地方会関連研究会・研修会(入谷、島、岩井)

第4回理事会 11月12日(火) 大同特殊鋼本社 出席23名

- A. 報告事項 本部及び事務局からの連絡事項(島、立川)
地方会関連研究会等の報告事項(立川)
第1回作業負担研究会(入谷、竹内)
- B. 協議事項 昭和60年度東海地方会学会(竹内)
東海地方会史編集状況(井上)
地方会ニュース(第5号)発刊(森川)
地方会関連研究会・研修会(入谷、森川)
本部学会賞選考規定案(皿井)

これからの諸行事予定

- 第2回産業医、産業保健婦、産業看護婦および衛生管理担当者ための研修会衛生管理者のための研修会
期日 昭和61年2月21日(金)10:00~16:00
場所 名古屋ターミナルホテル 8F 福寿の間

特別講演 「肝機能の評価方法とその保健指導」

—とくに境界領域の取り扱いについて—

伊藤 圓(藤田学園保健衛生大学医学部内科)

シンポジウム 「活力ある職場のための健康づくり」

司会 橋本哲明(東芝三重工場健康管理室)

- 運動生理学について
島岡 清(名大総合保健体育科学センター)
- ヘルスチェック、運動処方について
太田寿城(愛知県総合保健センター)
- 栄養学について 熊沢昭子(名古屋女子大学家政学部)

連絡先 岩井 淳(三菱重工 052-671-5161)又は地方会事務局

○第2回作業負担研究会

期日 昭和61年1月21日(火)13:00~17:00

場所 名大医鶴友会館 代表 入谷辰男(トヨタ自動車)

内容①上肢、手の機能と障害 中村蓼吾(名大分院整形外科)

②上肢負担に関する職場事例

加藤隆康(トヨタ自動車)、水谷 進(日本電装)

連絡先 小野雄一郎(名大医衛生 052-741-2111 内線 2068)

○第59回日本産業衛生学会 ○第40回日本産業医協議会

期日 昭和60年4月1日(火)~4月4日(金)

場所 広島厚生年金会館及び広島大学総合科学部

○第56回日本衛生学会総会

期日 昭和60年3月28日(金)~3月31日(月)

場所 三重大学医学部

学会長 吉田克巳(三重大学医学部公衆衛生学教授)

会員の消息

(60年7月27日~60年11月13日)

- 新入会員 13名(愛知)山田 均(保健衛生大学・医・公衛)、鷺見勝博(愛知医科大学・衛生)田中寿一(半田市医師会臨床検査センター)、浅田恭範(半田市医師会臨床検査センター)、佐野浩市(豊田健康管理クリニック)、浅野正秀(豊田健康管理クリニック)杉本尚文(豊田健康管理クリニック)、高山今朝文(豊田健康管理クリニック)、鷺野昌夫(名古屋鉄道人事部衛生管理)、水谷進(日本電装健康管理部)、山田和生(名鉄病院)、(静岡)鈴木秋雄(鈴木歯科)、倉林竹男(横浜ゴム健保診療所)
- 退会会員 6名(愛知)阿久津 慎、星 敦子、鈴木 汎(静岡)木島滋二、佐藤四郎(三重)森下正夫

試薬・機器
《名古屋片山化学株式会社》
 本社 名古屋市中区丸の内三丁目11番4号 TEL <052>971-6531(代)
 営業所 岡崎市藪田1丁目1番8 TEL 21-4203(代)
 営業所 小牧市大字入鹿出新田字宮前1107 TEL 73-2291(代)
 営業所 浜松市富塚町字娘谷3857-2 TEL 72-5110(代)

各種実験動物
 各種実験動物飼料
 実験動物飼育管理器具器材一式
 (株) 総合産業開発 エス エム エス事業部
 〒458 名古屋市長区鳴海町字大清水69-585
 電話 052-876-2956

ワープロ・電算写植印刷
株式会社 刈谷高速印刷
 本社 / 刈谷市幸町2丁目2番地
 名古屋支店 / 名古屋市西区名駅二丁目18番15号
 電算写植室 / 名古屋市西区牛島町2番10号

(財)静岡県産業労働福祉協会
 会長 石田 廣 記
 診療所長 岩野 泰
 〒421-01 静岡市下川原町6丁目8番1
 TEL 0542 (58) 4855 (代表)

労働省公認
(財)三重県産業衛生協会
 理事長 山本 重治郎
 〒511 三重県桑名市寿町3-11
 TEL 0594 (22) 1211

賀
 正
 昭
 和
 六
 十
 一
 年
 元
 日



未来を拓く、医療総合商社
小西六メディカル株式会社
 名古屋営業所
 〒464 名古屋市中区千種区仲田2-18-6 電話 052(762)7331(代)
 ●出張所：豊橋/浜松/静岡/沼津/四日市/三重/岐阜

医科理化器機・病院設備
株式会社 八神製作所
 代表取締役 八神 良蔵
 本社/〒460 名古屋市中区千代田2-16-30
 TEL 052 (251) 6671

Canon
 イージービーエス
EZPS 5300
 株式会社 丸天産業 TEL<052>241-3686(代)

栄養指導 (治療・予防医学)
 (K.K) **ダイエット.ケア.**
 代表者 竹内 義政
 管理栄養士
 〒460 名古屋市中区金山2丁目8番4号
 052 (331) 4024

(医) **宏潤会 大同病院**
 理事長 皿井 進
 〒457 名古屋市長区白木町9
 TEL 052 (611) 6261

— お 禮 の こ と ば —

日本産業衛生学会東海地方会長 島 正吾
 東海4県下における産業界の各位におかれましては、常日頃から
 本会の地方産業衛生活動にご理解、ご支援を賜わり、学会員一同心
 から感謝いたしております。また、重ねてこの地方会ニュースの刊
 行に際しまして、ご協賛を賜りましたこと厚く御禮申し上げます。

- | | |
|-----------|-----------------|
| イビデン株式会社 | 日本特殊陶業株式会社 |
| 三菱電機株式会社 | 東邦ガス株式会社 |
| 三菱名古屋病院 | 株式会社 東海銀行 |
| 名古屋鉄道株式会社 | トヨタ自動車株式会社 |
| 日本電装株式会社 | 株式会社 豊田自動織機製作所 |
| 日本碍子株式会社 | 中部電力株式会社 (ABC順) |

会 員 の 表 彰

- ・黄綬褒賞 横山 恒 矢 (大同病院)
- 昭和60年度全国労働衛生週間
- ・労働大臣表彰
- 功績賞 飯田 英 男 (東海銀行)
- 中央労働災害防止協会
- ・緑十字賞 労働衛生関係 鷲野昌夫 (名古屋鉄道)

編 集 後 記

昨年末、神戸港の荷役作業を見学した。最初にポートアイランド
 を訪れた。この人工島の岸壁には、韓国で造られた世界最大5万t
 のコンテナ船が巨体を横づけしていた。ハイバースで25tコンテナ
 を積み降ろしするガントリークレーンのエンジン音、コンテナを降
 るす時のズシーンという重い音は、港というより工場に近い。地上
 約20mの函の中でコンピューターの指示に従いクレーンを操る作業
 者の精神緊張は大変なものだという。次に在来型作業を見た。中国
 産栗を詰めた麻袋が船からクレーンで降ろされると、手鉤を持った
 作業員が荷に群がるようにして手際よくさばいてゆく。相当な筋肉
 労働だが、コンテナに較べればのどかだ。もう1つの人工島、六甲
 アイランドでは、スウェーデンの自動車専用船の船内に輸出車が次
 々と走り込むのを見た。貿易摩擦の現場を垣間みる感じであった。
 短時間の見聞ながら港の労働も急速に変化していることを実感した。
 最後に新年が読者の皆様にとって佳き年であることを祈ります。
 今回の発行は5月1日予定です。 久永直見

- 編集委員
- 編集責任者 岩井 淳 (三菱名古屋病院)
 - 柏木時彦 (豊田健康管理クリニック)
 - 加藤保夫 (藤田学園保健衛生大学)
 - 小森義隆 (大同病院) 竹内康浩 (名古屋大学)
 - 久永直見 (名古屋大学) 森川利彦 (三菱電機名古屋)


静注用ヒト免疫グロブリン製剤
ガンマ・ベニン
 (乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン)
 ヘキストジャパン株式会社
 東京都港区赤坂 8-10-16 〒107

循環障害改善剤
カルナクリン錠50
 カプセル
 ●適応症 用法・用量 使用上の注意は製品の添付文書をご参照ください。
 株式会社 **三和化学研究所**
 名古屋市東区東外堀町35番地 [(健保適用)]

消炎酵素剤
レフトーゼ 錠・顆粒
 シロップ
 日本新薬株式会社
 京都市南区西大路八条下ル


高血圧に
デタントール 細粒!!
 エーザイ(株)
 名古屋市東区泉2丁目 052-931-1311

● 沈降B型肝炎ワクチン
HBワクチン-ミドリ
 1瓶10μg 1瓶20μg
 (株)ミドリ十字
 大阪市東区今橋 1-15-1 (〒541)

抗悪性腫瘍剤
 **UFT**
 テガフル・ウラシル配合カプセル剤
 大鵬薬品工業株式会社
 東京都千代田区神田町 2-9


高脂質血症治療剤
 **ロレルゴ**
 **ロレルゴ細粒**
 製造発売元 **大塚製薬株式会社**

アミノグリコシドの新时代
フォーチミシン
 協和醗酵工業株式会社

新しい世代をきりひらく
 複数菌感染のファースト・チョイスに
 セフェム系抗生物質 運送基準収載
 **セフォタックス** 筋注用 注射用
 cefotax 日抗基 注射用セフトキシムナトリウム [略号:CTX]
 **ルセル・メディカ株式会社**
 東京都中央区日本橋本町4-5

セフェム系抗生物質
セフォビッド
 台糖ファイザー(株)
 名古屋市中区栄 2-10-19 (名古屋商工会議所ビル)
 Tel 052-221-7891

セファマイシン系抗生物質
セフメタゾン
 三共株式会社
 東京都中央区銀座 2-7-12

 **大日本製薬株式会社**
 名古屋支店
 支店長 中川靖夫
 名古屋市中区丸の内 2丁目1番8号
 電話(代表) 201-3341番

粘膜修復・胃潰瘍治療剤
アミコス 錠
 (リンゴ酸クレボプリド錠)
 萬有製薬株式会社
 東京都中央区日本橋本町 2-7-8 03(270)7551 代表

今日の研究は、
 明日の健康のために!
 日本ベリンガー・インゲルハイム株式会社
 兵庫県川西市矢野岡高田103番地

ムスカルム S 錠・ムスカルム D 錠
 下記疾患における筋緊張状態の改善
 頸肩腕症候群・腰痛症
日本化薬株式会社
 東京都千代田区富士見1丁目11番2号 ☎03(237)5111(代)

●(要指示)注射用セフェム系抗生物質製剤
ベストコール 静注用0.5g・1g
 筋注用0.5g
 (日抗基:注射用塩酸セフトキシム)
 ●効能・効果、用法・用量、使用上の注意および取扱い上の注意等については、現品に係付の説明書をご確認ください。
BESTCALL 武田薬品工業株式会社
 大阪市東区道修町2丁目27番地

●(要指示)虚血性心疾患・脳血管障害治療剤
コメリアン 50
 コフキ
 興和新薬(株)
 名古屋市中区錦 3丁目6-29 Tel 963-3350

田辺製薬株式会社
 名古屋支店
 名古屋市中区丸の内 3-8-5
 TEL 052(963)8151

謹
 賀
 新
 年

昭
 和
 六
 十
 一
 年
 元
 旦

